

視察報告書

委員会名	建設産業常任委員会
視察日時	令和元年11月6日(火) 15時00分 ~ 16時45分
視察先	新潟県長岡市
視察項目	長岡市観光戦略プランについて
視察参加議員	小島忠義、寺崎強、松月よし子、徳安達成、柳明夫、平田雅紹
視察概要	
<p>【長岡市の状況】</p> <p>長岡市は新潟県中越地区に位置し、人口約27万人 面積約900km² 一般会計予算1,353億円で新潟県の中で新潟市に次ぐ規模の中核都市である。</p> <p>市内に16の酒蔵があり、日本酒で乾杯を推奨する「乾杯条例」を作成し、日本酒の普及に力を入れている。</p> <p>平成30年度から平成34年度(令和3年度)までを計画期間とした「長岡市観光戦略プラン」を策定し、「長岡市長期総合計画」と「長岡リジュベネーション戦略」の指針・ビジョンを基に、観光に関わる関係団体と共通認識を持ち、連携して取り組み、現状と課題を把握したうえで、長岡の観光関連産業にイノベーションをもたらし、交流人口を拡大するための戦略的な指針を掲げている。</p> <p>【視察の内容】</p> <p>内容について長岡市観光企画課の担当者より説明を受けた。</p> <p>(1) 直近の観光入込客について</p> <p>平成27年度 772万人 平成28年度 753万人 平成29年度 715万人で減少傾向にある。</p> <p>(2) 100万人を越える観光入込客のうち、市内宿泊者の割合について</p> <p>今年度の観光入込客は108万人であった。市内宿泊可能人数は5300人であり、日帰り客がほとんどであるが、新潟市や周辺都市への宿泊者もいるので、スマートフォンアプリ「長岡まつり」を作成し、来場者にアンケート調査を行った結果、9300人から回答があり、宿泊場所やどこから来たかなど解析している。</p> <p>(3) 観光周遊ルートの構築について</p> <p>一年を通して長岡花火を楽しむことができ、さまざまな長岡の魅力に触れられる観光拠点施設「ながおか花火館」を整備している。市内に魅力的な地域資源が数多くあり、錦鯉や日本酒などは、全国的にある程度の知名度を得ているがより発信方法を工夫していき、地域資源を効果的に組み合わせることによって、周遊ルートの構築を進めている。</p> <p>(4) 広域的な観光への取組・地域DMOの取組について</p>	

長岡地域定住自立圏（長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町）の自治体や佐渡市との連携をはじめ、平成28年には中越地域の自治体、観光協会と「中越文化・観光産業支援機構」を設立し、様々な資源を結集して交流人口の増加を図るなど、中越地域全体の発展を目指している。現在のところ地域DMO登録への取組はない。

(5) インバウンド観光の推進について

無料Wi-Fiサービスや通訳サービスを行っている。

「長岡花火」を軸としながら、地域資源を活用し海外へのプロモーションを強化し、新潟県や他市町村・関係団体・民間企業と連携し、海外からの誘客拡大を図っている。

(6) 情報発信、PR活動で工夫していること

市の観光情報HPを更新すると、新潟県の観光情報も自動的に更新できるシステムを構築している。県内他市町村と共同で、東京都内で観光情報発信も行っている。

(7) 今後の課題について

観光関連予算は17億あるが、道の駅整備事業関連予算が多く、予算を掛けずに観光客を伸ばしたいとのこと。観光戦略プラン最終年度には、観光入込客900万人 外国人宿泊客 16000人を目指して、全市的な観光の取り組みを戦略的かつ強力に進めていくため、観光振興に関わる関係団体の連携を図るとともに、より効果的な推進体制とするための組織体制の見直し、検討を行う必要がある。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

糸島市の観光入込客数は、他市と比べると多いが、宿泊施設も少ないため日帰りが多く市内消費金額も少ない。糸島地域DMOと連携をしながら、周遊滞在型観光ルートの開拓を行い、観光入込客・宿泊客増の施策を進めて行く必要があると考える。

糸島市でも観光戦略プランを策定し、長期的な目標を掲げて、観光事業で豊かな地域づくりを目指し、観光振興に関わる関係団体の連携が必要であると感じた。